<table>
<tr><td colspan="3">令和元年度　第２回瀬戸市環境衛生審議会議事録</td></tr>
<tr><td>日　時</td><td colspan="2">令和２年２月２８日（金）　午前１０時から正午まで</td></tr>
<tr><td>場　所</td><td colspan="2">瀬戸市役所５階　５０１会議室</td></tr>
<tr><td rowspan="2">出席者</td><td>委　員</td><td>出席者：小林委員、藤井委員、伊藤委員、加藤委員、
田中委員、服部委員、眞野委員、三浦委員
欠席者：なし</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td>藤井市民生活部長
（環境課）
山内課長、長江課長補佐兼環境保全係長、
平川ごみ減量係長、池内ごみ減量係主事</td></tr>
<tr><td colspan="2">傍聴者</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="3">１　開会
・長江補佐から会議成立の報告
・藤井部長から挨拶
・小林会長から挨拶
２　議事
⑴　瀬戸市一般廃棄物処理実施計画について</td></tr>
<tr><td>会長</td><td colspan="2">議事の「１、瀬戸市一般廃棄物処理実施計画について」だが、本件については本日答申を渡したいと思うので、よろしくお願いします。それでは、事務局より説明をお願いします。</td></tr>
<tr><td colspan="3">事務局より資料１「令和２年度瀬戸市一般廃棄物処理実施計画」について説明。</td></tr>
<tr><td>会長</td><td colspan="2">何か質問はあるか。</td></tr>
<tr><td>委員</td><td colspan="2">何年か前に、収集業者が突然やめたという話があったと思うが、各業者の健全性について精査されているか。</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="2">結果として、ごみが集められなくなったというところまではいかなかったが、収集業者より３か月後には収集ができなくなるという申し出があり、そこから３か月の間に別の収集業者を探すといったことがあった。今もそのようなリスクが全くないわけではないが、今現在、委託している業者については、一定程度の審査した許可業者の中から選定しており、大きなトラブルもなく収集している。</td></tr>
<tr><td>委員</td><td colspan="2">前回そうなってしまったときの原因が、今回の精査に反映されているのか。</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="2">原因は会社の都合としか聞いておらず、明確な理由は分からない。今は、会社の経営状況もふまえて委託業者を決めている。</td></tr>
<tr><td>委員</td><td colspan="2">引き続き、経営状況を把握し、リスクは考えておくべきだと考える。</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="2">今回新型コロナウイルスの流行で、収集業者の社員も感染する恐れがある。各業者にそれぞれのリスク管理やリスクマネジメントを行っていくよう依頼をしているところである。</td></tr>
<tr><td>委員</td><td colspan="2">資料の「３、最終処分計画」について、焼却灰の行き先の約 1,000ｔが北丘、約 3,000ｔがアセックとあるが、この割合は前年と変わらないのか。</td></tr>
</table>

事務局	今、詳細なデータは持ち合わせてはいないが、以前は、北丘とアセックと半々くらいであったものが、今は１対３くらいになっている。なるべくアセックに搬入し、北丘を長く使用したいため、アセックへの持込みが多くなるようにシフトしているところである。
委員	アセックはあと何年使えるのか。
事務局	今、使用している第２アセックは、あと約 10 年程度使えると聞いている。また、第３アセックの建設についても検討していると聞いている。
委員	10 年となると晴丘センターの余命とも絡むと思うが、いずれにしても灰を減らす活動を今から始めないと、いずれ日本中が灰だらけになってしまう。そうならないように、今から対策をとるべきと思うが、皆さんいかがか。10 年なんてすぐにきてしまうので、何か考えがあれば聞きたい。早めに活動しないといけないと思う。
事務局	第３アセックに期待するところもある。
委員	施設を作るのはネガティブなことであり、段々厳しくなっていくような気がする。また、「４、一般廃棄物に関連する公共施設」について、晴丘センターの処理能力が出ているが、これは現状の処理能力ということで、改修中の処理能力とは異なるのか。
事務局	現状の処理能力である。
委員	実際に改修が始まると処理能力が変更されることでよろしいか。
事務局	能力自体は施設の処理能力になるので、150ｔの炉が２機あって 300ｔ燃やせるということである。その中で工事期間中は 300ｔ燃やす炉が使えなかったり、１炉しか使えないときは、100ｔくらいしか燃やせなかったり、能力自体は燃やし方で変わってくる。
委員	クリーンセンターについて、今年度タンクが事故か何かで壊れたと聞いたが、それは事実か。改修しなくてはならないと聞いたのだが。
事務局	クリーンセンターも老朽化していて、大きな事故が起きたとは聞いていないが、必要な機械、装置を替えながら、いずれは延命化のような工事を行う必要があると聞いている。近い将来、大規模修繕が必要になるのは、晴丘センターと同じである
委員	その辺の詳細も何らかの形で市民へ話をしないと、また突然こうなってしまったでは、非常に不透明な状態である。もし修繕した場合いくらかかったのか、分かる範囲で周知すべきであり、また、早めに手を打たないと市民の理解は得られないのではないか。こういったことを、意見として加えていただきたい。
委員	来年度、剪定枝の持ち込み先にフルハシＥＰＯとあるが、業者選定はあったのか。
事務局	元々、市内にあった処理業者に持込みができなくなり、市内の剪定枝を扱っている業者から相談もあって、情報収集を行った。その結果、春日井市にフルハシＥＰＯがあり、事前に現地調査をして、搬入業者に持込量等のヒアリングも行った。最終的に春日井市との事前協議を行い、こちらに記

	載している。
委員	最終処分場の北丘とアセックの割合は大丈夫か。これは、費用対効果なのか、北丘の延命化が第一優先なのか。
事務局	アセックも公益財団法人として収益を上げながら最終処分業をやっている。一定程度の受入量がないと経営が苦しくなるので、民間も含めて持ち込みの要請があったが、瀬戸市としては、地元の最終処分場をなるべく長く使いたいという思いもある。
委員	市外の処理施設をなるべく優先して使い、費用対効果というよりも全体的な判断で決めているということで承知した。あと、汚泥処理について、三重県の中央開発はどういう処理形態になっているのか。焼却なのか、たい肥なのか、最終的にはどうなっているのか。
事務局	中央開発もすべて埋め立てているわけではない。
委員	550ｔなので量はたいしたことないが、春日井市では、有効利用ということで、処理費が高いがセメント業者に持ち込みをしている。
事務局	おそらく一般廃棄物に係る汚泥は埋め立てているが、下水道から出る産業廃棄物の汚泥は一部セメント関係でリサイクルもすると聞いている。
委員	承知した。
委員	アセックは公益財団法人として未来永劫あるわけではないと思うのだが、アセックありきで大丈夫なのか。
事務局	アセックは愛知県の尾張地域を中心に、産業廃棄物の埋め立てを主にやっており、一般廃棄物はそのうちの一部である。愛知県は産業立国でもあるので、産業で出た廃棄物の扱いに困っている民間企業の要請や、自治体の要請を含めて希望が多いため、すぐになくなるとは思わない。市として北丘以外でも最終処分の受入先を考えないといけないと思う。
委員	産業界の要請があるというが、増えているのか減っているのか。これは瀬戸市だけの問題ではないと思う。そもそも灰を減らすという問題をやらないと成り立たなくなるのではないか。5年後10年後も灰は増え続けていくと思う。瀬戸市としてあるべき姿を真剣に考え、議論する場を、来年もっていただきたい。
会長	今の点について、灰の量は廃棄物の量で大体決まるので、一番最初に必要なのはごみの減量である。そして、焼却灰も必ず出てくるので、灰の活用方法も考えないといけない。焼却施設のタイプもいくつかあり、灰の活用方法も変わってくる。晴丘の延命とあるが、次に建替工事をするときの焼却方法の選定をしないといけない。それと、灰を埋め立てるのか、リサイクルするためにセメントの原料にするのか。知多と東海市の焼却施設では、セメント工場に引き取ってもらい、リサイクルすると決めたが、これは費用対効果で市の判断で決める。灰を減らすために、まずはごみの減量、そして、灰の活用までしっかり考えるということは当然どちらも必要である。

	基本的にリサイクルする場合はセメント原料にする。もうひとつは灰を溶かして、石にするという方法もある。これは費用も高いが、高速道路の法面にある石を、焼却灰を溶かして作る活用の仕方もある。技術は進歩して選択肢も増えており、受け入れる容量の問題や運ぶ距離等、全体を理解して決めていくことになる。アセックありきということではなく、いずれ変わるかもしれない。なぜアセックなのか、どうやって意思決定したのか気になると思うが、もう少し視野を広くし、全体として理解する必要がある。
委員	この先、人口が減っていく中で、税収も減っていく。そういう時代になる中で、費用は増え、税収は減ることになる。この場で話をする内容ではないかもしれないが、このままだと成り立たなくなってしまうので、この話をする場を作っていただきたい。
会長	アセックはいつでも見学できるので、場合によっては皆さんで行くのもありではないかと思う。他にご意見はあるか。
委員	この会議は、ごみをいかに減らすかということを話すのではないか。そのような方向に話を持っていったらいかがか。
会長	それも含めての話になるので、一般廃棄物の処理実施計画も審議会の重要審議事項である。この会議の主旨はお手元の資料「環境衛生審議会規則第２条」に載っているとおり、「審議会は、市長の諮問に応じて、市の廃棄物の処理及び清掃業務に関する重要事項を調査審議する。」とある。今話していることも重要な審議事項として、ご理解いただければと思う。よろしいか。他にご意見はないか。 それでは、ご審議いただいた瀬戸市一般廃棄物処理実施計画案について、当審議会として、この案を了承することでよろしいか。 賛成の場合は挙手をお願いする。 ≪全員挙手≫ それでは、全会一致ということで当審議会の答申とする。
事務局	いただいた意見は、今後の施策を展開していく中で取り入れていく。正式な答申書は、後日、事務局から会長にいただきにあがりたい。
⑵　ごみ処理費適正負担の検討について	
事務局より資料２「家庭ごみ処理費適正負担調査等報告書（案）」資料３「家庭ごみ処理費の有料化に関するアンケート調査結果概要版」について説明。	
会長	ご説明ありがとうございます。まずは、このアンケートに関する質問をお願いする。その後、有料化前提ではなく、まずは何をやるべきか、皆様の意見をいただき、有料化について答申したいと考えている。
委員	まずは、ごみ問題についての関心ということで、20 代以下は関心が低いとなっており、5 割を超える人で関心がないということが分かったとあるが、逆に 5 割に近い人は関心があると捉えることもできる。あと、30 代は 7 割が関心を持っている。しかし、有料化したときの取り組みが低いのはなぜ

	か。関心があるのに取り組まないのはなぜか。不思議な現象が起きてしまっているのではないかと思う。また、考察について、有料化について理解を示していたのに関心が低いのはなぜか。関心があるのに、ごみが減っていないのはなぜか。このアンケートをどのように読み取って良いのか、また、このままアンケート結果を鵜呑みにしていいのか疑問に思う。
事務局	アンケートとは別に、市内８か所で説明会を開き、生の意見をその場で聞いた。まずは、お越しいただいた委員の方にお礼申し上げる。その場で、組成調査の結果について、食品ロス、ミックスペーパーが多く含まれていると話すと、知らない人が多いのが事実である。分別ルール等を啓発してきたが、そういったことを目の当たりにすると、ごみに関心はあるが、細かいルールや実情が伝わっていないのが、取り組んでいないところに繋がっているのではないかと考える。
委員	自由意見の数が 495 あり、アンケート回答者の半数程度あるということは、関心が高いと言って間違いないと思う。関心が高いということを、もっとアピールしても良いと思う。会長と相談しながら、分かりやすく素直に伝えるべきだと思う。内容はともかく、書くという意思があるということは、賛成にしろ、反対にしろ、関心がなければできないことである。批判的な意見も多いが、自由意見をゆっくりと読み取って、大事な部分を抽出して反映していけないだろうか。関心が高いのは事実であり、反対意見も含めて何のためにやるのか、ごみ減量するためにやることを伝えられないだろうか。ごみを 20%減量すれば有料化しないという話があったが、これが本当であれば、減量をメインにし、減らすために一番良い方法を伝えてなくてはならないのではないか。 資料にある、啓発の課題が最重要であると思う。啓発のやり方でごみが 20%減り、袋の値段を上げなくても良いのであれば、上げなくても良い。上げなくても良い方法があるならば、他の選択肢もあったほうが良いのではないか。とにかく情報提供をやっていけるのであれば、何か違った見方ができるかもしれないのではないか。有料化が目的ではなく、減量化が目的になれば良いと思う。
委員	町内にもっとアピールしてみてはどうか。市から町内の会合に出向いて組長会議等に出席して伝えてみてはどうか。資料は、自分に利益がないとまず読まない。それが現実である。口頭で伝えていく方が、浸透していくのではないかと思う。
委員	市内８ヶ所で説明会をやってもらったことで、自治会のメンバーはごみ減量に興味を持つことができた。まず、ミックスペーパーの分別をやろうとなり、自治会で広報を協力してやろうという声も各会長から上がっている。これは行政だけではなく、市民も協力すべきであり、やらないといけないとことだと思う。有料化の前に、啓発をやるべきである。

委員	その都度アピールをしないと、上がった声もなくなってしまうのではないか。
事務局	ごみを 20%減らすという話があったが、ご存じのとおり晴丘センターが 10 年延命化するということで、昨年度工事が始まり、今年度から来年度にかけて工事のピークを迎える。その際、処理しきれないごみを近い市町に持っていかざるを得ない状況があり、その量が約 20%である。そのごみを市外で処理しようとすると億単位の費用が必要になり、その例で 20%減らせばということを言ってきた。アピールの面では、限られた職員で説明会をするのも大変だが、直接説明したり、話を聞いたりし、身のある説明会だったのは事実である。今後も、自治会の協力を得ながらやっていきたい。
委員	市長の言葉には、ごみの「ご」の字もない。ごみというのは日常生活の一番の課題でもあり、少しでもトップの中に意識があれば違ってくるかもしれない。
委員	どこの組織でも同じだが、トップが動かないと下は動かない。安城市では、ごみ削減と大きく垂れ幕を掲げている。それを毎日見ると職員の意識も変わり、来庁した人も嫌でも意識してしまうのではないか。トップの市長が意識して発信して動いても良いと思う。我々がやるのとでは、影響力が違う。ごみの減量が横ばいのまま、何年間も続いている。審議会の委員として、自治会に入っていない人に周知するためには、駅でのビラ配りを行う等、市役所にお願いするだけではなく、一緒になってやらないと厳しいと思う。自治会のモデル地区を作り、可燃ごみに含まれるミックスペーパーが何%減っただとか、結果が出るかもしれないので、自治会にも期待したい。
委員	分別をきっちりすればごみは減ると考えるが、瀬戸市は他市と比べると分別が楽と言われる。主婦目線だと、袋に入れれば何でも持っていってくれるという意識が高いので、意識改革が必要かと思う。市長の市政が気になるのであれば、そこからスタートしても良いのではないか。毎年、末端のほうで同じ話をしているだけでは、ひとつハードルを越えることができない。また、モデル地区を作り結果が出れば、その事例を基に説明することができるのではないか。
委員	ごみの分別をすれば減るならばやるべきである。例えば、自宅の前にごみを出せば分別やルールが守られ、ごみも減るのではないか。
事務局	トップへの話とあるが、内部でもトップに話すのが下手である。予算の話もあるが、瀬戸市は人口が減っているので、市民を増やすために人を集める話が中心となっている。市民生活であるごみの話は当たり前と思われ、内部にも市民にも伝えきれていないことを、心得てやっていかなければいけないと思う。 戸別収集について、多額の費用がかかる。燃えないごみの戸別収集を始め、スプレー缶が原因での火災が減り、排出することに責任を持つということは戸別収集の良い点でもあるが、コストバランスを考えながらやっていか

	ないといけない。
委員	適正負担の検討について、他の市町との整合性を取らないと、尾張旭市、長久手市はなぜやっていないのかと聞かれることがあるのではないか。もし有料化するのであれば、説明しておかないと疑問に思うのではないか。
委員	尾張旭市はしっかりごみの減量ができている。瀬戸市は人口が減っているが、ごみは横ばいである。その辺で意識の差もあり、尾張旭市では有料化をしていないのではないか。
会長	原則、ごみの処理費は市民税で賄うもので、有料化が必要であることは基本的にはないと思う。あくまで、ごみ減量の手段として有料化がある。財政の話もあるが、そこは分けて考えなければいけない。あと、ごみを減らすということは排出量を減らすことであるが、本当にできるのか。自分が出すごみの量を本当に減らすことができるのか、皆様に聞きたい。買う量を減らさないと、おそらくごみは減らない。買わなければ良いというのが、本当に正解なのかを考えないと、不法投棄するか、他の市町に持って行き減るだけである。
委員	意識改革ができれば良いが、買うことに責任を持つべきである。買わないということは無理であるので、買うときに捨てるところまで考えないといけない。色んなことを考えて買わないといけないと痛感している。
会長	審議会で議論しているのは、市民が出すごみの量を減らす話をしているが、本当に必要なのは焼却処分する量や最終処分する量であり、これを減らすことが一番重要である。排出量と処分する量は、必ずしも一致しているわけではない。そこでリサイクル、リユースがある。リサイクル、リユースをすれば、最終処分の量は減る。統計上廃棄物の量は、市民が出すごみの量である。ただ、本当に減らしたいのは処分する量であり、きちんと分けて考える必要があり、統計上減らなくても実質減れば良い。燃やす量と埋め立てる量を減らす、これを考えることが重要である。組成調査の結果から、ミックスペーパーの混入率を減らせば焼却施設に持っていく量を減らすことができ、捨てなくて良いものを増やすということはリサイクル、リユースになる。 理念だけでは進まないので、どうすれば良いかというアイデアをいただきたい。 例えば、省エネについて、電気量が減ればお金が余るが、そのお金を捨てるか。捨てずに何かを買えば CO_2が生まれる。省エネの観点から見ても、CO_2を減らすのと、ごみを減らすことは同じことと思う。物には収支があり、減らしたものがどこに行ったかまで考える必要がある。また、お金の問題も必ずついてまわる。そして、広報に載せても読まれないということはずっと続いていると思う。では、別の方法を考えないと進まないのではないか。時代は変わっており、若い人の関心がないとなっているが、SNS を使ったり、リサイクルショップに行ったりしている。そういった行動を考えて、別の啓発方法も考えないといけないのではと思う。あと、小売店との協働も必要だと感じる。購入する意欲を削がない状況で、ごみの量を減らす方法は絶対にある。

委員	難しくてできるか分からないが、ごみに個人の名前を書いて出してみてはどうか。個人の名前を書いて出すとなると、何でも入れて出すことはできなくなるのではないか。
会長	では、出さなくなったものはどうなるのか。責任を持つのは当然である。ただ、それではごみは減らない。ごみを減らす方法が必要である。
委員	戸別収集を行えば責任が出るのではないか。出し方のひどい人がいれば、名前が書いてあると啓発もしやすくなるのではないか。本当か分からないが、自由意見の中で、瀬戸市は分別が緩いから、他の市から持ってきている人がいるといくつか書いてあった。もし本当ならば、個人の名前を書くことで牽制することができるのではないか。瀬戸市の人口が減っているのにごみが減らないのは他市からの流入も考えられ、そういった対策もしないと、瀬戸市民が意識改革をしてもごみは減らないのではないか。
会長	流入の話は別とし、名前を書いて出しても資源化できるものが入っている場合、どうするのか。ミックスペーパーだけ抜いて収集することができれば良いが、それはできない。同時に収集が行えるような、今までにない工夫が必要である。
事務局	すでに、燃えないごみと粗大ごみを出す場合には名前を書いて自宅の前で収集し、責任を持って出すようになったが、一方でプライバシーを気にする人もいるので、個人情報の問題も合わせて考えないといけない。
委員	まず、ミックスペーパーに特化して注力してはどうか。パワーポイントのプレゼン資料をもう少し簡単にし、ホームページに載せれば、市民団体がコピーして使えるようになり、イベントで配ってもらうこともできる。見られないなら、嫌でも目に入れる仕組みを考えて、訴え続けることが必要である。 また、若い人に人気のあるスウェーデンの女の子グレタさんを瀬戸市に呼び、講演してもらう等して、これから 20 代になる高校生たちを集めて行えば関心を持つと思う。万博のときのような熱気を思うと今は熱気がないので、お金がかかることかもしれないが、できないか。お金が必要であれば、どうやってお金を集めるか、もっと具体的な話をしていかなければいけない。
委員	20 から 30 年前くらいに、市の職員が朝、置場に立ってごみを出す人に対して分別指導をしていた。監視ではないが、顔と顔を合わせて目に見えるかたちで啓発をしてはどうか。総量が減らないのであれば、リサイクルにまわす量を増やすしかない。分別収集をすればごみが減るのであれば、分別収集を具体的にやることを模索するべきではないか。
会長	組成調査の結果を見ると、減らせるものとしては、調理くず、食べ残し、手付かず食品、合わせて 20%くらいある。調理くずは別にして、食べ残し、手付かず食品は必ず減らせる。ミックスペーパーは 7%くらいあり、これは物理的に抜くことができれば確実に減らせる。ちなみに、紙おむつは 8%くらいである。

委員	紙おむつは前年と比べて増えているか。
会長	あまり変わらないが、全国平均並みである。子どもの紙おむつというよりは、大人の紙おむつである。組成調査の結果を整理して、ホームページに情報公開するようお願いする。
委員	組成調査の結果やプレゼン資料も含めて、ホームページでの公開をお願いする。
会長	ごみを減らす行動が自分のメリットになるように、具体的な利益を考えるのも、考え方のひとつだと思う。そのような視点でも考えていただきたい。関心を持たせるためには、具体的なリターンを市民に提供する等して、もうひとつ踏み込んで考えていただきたい。これは、人数も予算も限られているので、市にお願いするだけではなく、日常生活の中や経済活動の中で、できることを考えていただきたい。
委員	広報に折り込んでいたチラシは見たことはあるか。組成調査の結果や分別の仕方も載っており、それなりに発信してきた。広報は見ないという意見もあるが、ぜひ見ていただきたい。
委員	会長の言うインセンティブやメリットの話だが、例えば晴丘センターはCO_2をどのくらい出しているのか。その数字を出し、削減してはどうか。昨年との差を明示すれば、分かりやすく広報できるのではないか。ここに住んで良かったなという街にすると、環境面でのPRにもなる。インセンティブがものになるとそれもCO_2になるので、気持ちの面で何かできないか。
会長	みよし市はCO_2のゼロ宣言をしている。
委員	市として、それすら言わないと話が進まない。まず、市長から街として変わる目標を掲げることで、市民に周知することが大事ではないか。数値化できるものがあれば、試してみても良いのではないか。
委員	ペットボトルがごみに出されずにリサイクルされれば利益になる。何か他に還元されるような仕組みがないだろうか。
事務局	ペットボトルや紙類は売り払いをしているが、最近は中国の影響もあり売却単価が下がってきている。海洋プラスチックの問題もあり、プラスチックも同様に売れなくなってきている。ごみを減らせば何か良いことがあるということは、考えていかなければいけない。ごみを減らすということとセットで考えていきたい。
会長	私も考えるので、方法論を考えていくことをお願いする。啓発する具体的な方法が必要だということはアンケートの結果でよく分かった。一生懸命やっているのになぜ伝わらないのか。実施できるアイデアを集めたいと思う。
委員	SNS の調査をしてみてはどうか。Facebook からホームページを見に行く人も多いので、関心ある人のアクセス等も含めて、もう少し深堀りしていただきたい。何人見ているか分かれば、対策もしやすいのではないか。
副会長	SNS について、結局は興味がないと見に来ないので、そこをどう考えるかが必要である。世代別で使うツールが違うので、そこも踏まえて何を選択するのか。30 代から 40 代は Facebook、10 代から 20 代はツイッターやインスタを使っている。 あと、資料３の考察①について、その内という言い方と全体という言い方

	では捉え方が変わるので、どちらのニュアンスで考察しているのか。せっかく数値で議論しているのに、捉え方が違うと話がそれていってしまうのはではないか。見方を大事にしていただきたい。 市長については、現場は頑張っているので、ここで市長がどうこう言っても変わらないと思う。であれば、ごみを出す市民が変わっていくのが大事だと議論を聞いていて思った。自治会の関心が高まってきているというのは心強いと思い、その行動が徐々に広まっていき、街の中で思いのある人が一人ひとりに伝えていけば、周知も広がっていくのではないか。一年間だけでも強化年間としておいてみて、結果を見てみるのもひとつのやり方だと思う。
会長	他はよろしいか。 では、この議題については、終了とする。
（３）その他	
事務局	先ほどの課題については、いただいた意見を調整する。有料化について今後避けては通れないと思うが、市としてできることもあるのではないかと思うので、ごみ減量推進会議と一緒に啓発のやり方について考えていきたい。次回の審議会で有料化について、事務局案を示したいと思う。今年度は日程的に厳しいので、新年度また実施したいと思う。また、眞野委員、三浦委員、田中委員については、任期が一年となるが、有料化の議論が終了するまで、継続をお願いしたい。
会長	それでは環境衛生審議会を終了する。本日はありがとうございました。